

# 瑞医

世界に羽ばたくMEDIPORT

2009 VOL.10

contents

極 研究&教育  
Current topics in research and education

人 時の人  
People in the news

楽 学生生活  
Campus life

技 最新医療の紹介  
Latest developments on the medical front

和 お知らせ  
Information

## 医・薬・看護連携チームラーニング ～地域参加型学習の導入～

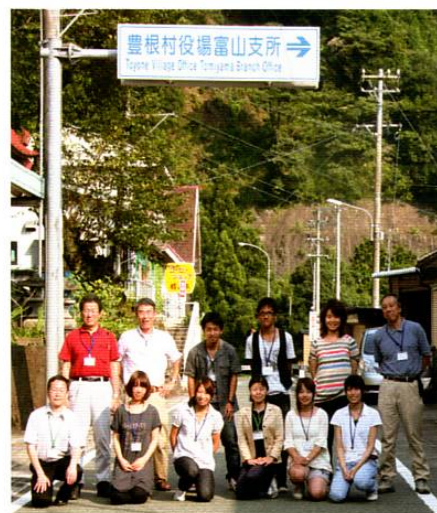
平成20年度に開始した医・薬・看護連携早期体験学習は、今年からグループ研究のテーマに、北設楽郡豊根村富山地区と三河湾の篠島の調査研究を加えました。このカリキュラムでは3学部1学年約240名が24の学部混成チームで活動しますが、その内2チームがこれらの地域を担当しています。カリキュラムの目標は、入学後早期から医療人としての自覚と使命感を持ち、自ら課題を見つけ解決する課題探求型の学習姿勢と、医療人に必要なチームワーク能力を習得することです。地域の研究では、地元の人たちとのふれあいから地域のニーズを発見し、「学生なればこそできる」課題の解決を通じて、医療人としての姿勢や実践力を習得して欲しいと考えています。

富山地区担当の学生グループは、8月17日から2日間の現地調査を行い、連携教育担当教員も同じ時に現地を視察しました(写真)。富山集落は、昭和30年に佐久間ダムによって水没した村落が山麓に移転したものです。昭和35年に人口654人の本州最小の村となり、平成17年に豊根村と合併しましたが、現在の集落人口は137名です。地域に産業は殆どなく、収入源は公務員と災害に対する工事です。診療所に医師が来るのは週2日で、今回、豊根地区から来た医師に学生がインタビューし、僻地医療の非常に現実的な話を聴きました(内容は後日報告します)。一方、自然は豊かで人々の強い結びつきがあり、

学生達が行ったバーベキューでは集落の全小中学生(10名)をはじめ多くの人達と打ち解け、翌日の家庭や学校の訪問調査もスムーズに進みました。集落には離村者の空き家が多く、山村暮らしに憧れる人からの問い合わせが多いようですが、離村しても村への愛着から家を手放せず、未だ外からの移住者はないようです。医療だけでなく、建築や文化、経済面からも大学が関わることで地域の持続可能な発展に繋がる可能性を感じました。

篠島担当の学生グループも精力的に研究活動を行っています。知多厚生病院の協力を得て6月14日と8月20日に現地調査を行いました。名古屋から電車と高速船による移動で思ったほど時間がかからず、あまり「離島」という印象はないとのことですが、島の現状や行事とともに、診療所の調査を行い、患者さんからのインタビュー、海南病院の2年目研修医による島の人たちへの講演活動などが印象的だったとのこと。

地域を学習の場とする「地域基盤型学習」は多くの大学で行われていますが、学生が一時的にやってきて去っていくだけに終わるケースが多いようです。本学ではこれを一歩進め、「地域参加型学習」を目指したいと考えています。その理念は、「地域への参加」による学習と、「地域の参加」による医療人育成です。このプログラムは、このたび「医療系学部連携チームによる地域参加型学習」として、文部科学省の平成



21年度GP大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラムに採択されました。来年度は今年度の活動の継続発展と共に、本プログラムを都市部にも広げたいと考えています。

最後に、富山地区の調査には豊根村役場および富山支所、診療所および村民の皆様から、また篠島の調査には区長様をはじめ島民の皆様、また知多厚生病院宮本忠壽院長から、ご理解と多大なご支援を頂いております。この場をお借りして御礼申し上げます。

医・薬・看護連携教育ディレクタ(早野順一郎、浅井清文、木村和哲、飯塚成志、鈴木 匡、前田 徹、明石恵子)

### 「瑞医の由来」

「瑞医(ずいい)」という言葉は、瑞穂で育った医師が心の支えとなる名市大、「瑞」にはめでたいことという意味があるので新しい門出の広報誌にと考えました。新しく発足した同窓会と一体となって歩むことを目的に、その名前「瑞友会」と相呼応しています。サブタイトルの「MEDIPORT」は、「Medical」と「Port(港・空港)」をかけた造語。名市大を最新情報を発信する拠点とし、卒業生が社会・世界へへ出航し、またいつでも戻ってこられる港であるようにとの願いをこめています。